

ワークショップ「排泄への取り組みと今後の展望～新たなステージに向けて～」

発表1. 排尿ケアチーム：排尿自立支援に関する診療計画書の工夫を通して

- いつでも確認しやすくする
- 伝わる記録にする
- 問題を共有する
- 排尿ケアの根拠を共有する
- さらに～ 急性期の治療後（退院後）の排尿ケアを見据えた取り組みを目指す

発表2. 訪問リハでの事例を通して

- 医療と介護をつなげる
 - ・ アセスメントの技術や機器の活用技術を磨く
 - ・ 利用者、対象者の声を拾い上げる技量、関係づくりを大事にする

発表3. 介護予防・日常生活総合支援事業、介護サービス利用者の排尿障害のアセスメントを通して

- 介護予防に排泄アセスメントは不可欠
 - ・ 症状、QOL低下は多岐に渡る
 - ・ アセスメントにより個別に対応していく
 - ・ 早期介入、予防的介入によりADL、QOL向上を目指す
- パワーアップ教室の講話と運動メニューの中に排泄に関する内容を取り込むように働きかける

発表4. サロンの開設による地域での取り組みを通して

- 健康問題への関心が高い方々にこそ関わりが大切
 - ・ 地域の中に課題が潜在している
 - ・ 市民と専門家との協働
 - ・ 住民の力を引き出す
 - ・ 地域の中に入っていくと地域の中で待っている方と協働できる潜在力が互いにある